

国語 第3学年 生き物についての考えを深めよう

検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：生き物についての書き手の考えと、それを述べる理由や事例を関係付けて読む。題名の問いに印象だけで答えず、本文で示された事実と自分の判断を分けて考える。C(1)ア・C(1)オの学習として、生き物への考えの記録。題名の問いへの初めの答え、本文の理由や事例、読み終えた答え、その根拠を残す。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、叙述から考えと理由・事例の関係を捉え、文章を読んで自分の感想や考えをもっているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。C(1)ア・C(1)オの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：生き物への考えの記録を残す。題名の問いへの初めの答え、本文の理由や事例、読み終えた答え、その根拠を残す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、C(1)ア・C(1)オに関わる学習の中身を確認する。

指摘 4：難しさのある児童にはどんな支援をするか。

返し：題名の賛否投票だけになる。本文の事例を自分の意見と混ぜる。これについて、書き手の考え、理由や事例、自分の意見を別欄に置く。知らない生態は本文や確認できる資料の範囲で扱い、実物を捕獲・接触する活動にはしない。〔知識及び技能〕(2)アとC(1)ア・C(1)オを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「書き手は、どんな理由や事例からその考えを述べていますか。題名の問いへの自分の答えは、読む前とどう変わりましたか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、C(1)ア・C(1)オに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：生き物への考えの記録は紙に記録できる。題名の問いへの初めの答え、本文の理由や事例、読み終えた答え、その根拠を残す。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をC(1)ア・C(1)オの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は東京書籍の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。C(1)ア・C(1)オで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：環境問題への正しい意見を教える授業なのか。

返し：C(1)ア・オに沿って考えと理由・事例を読む。教師の結論への賛否ではなく、本文からどの根拠を捉え、自分の考えに結び付けたかを評価する。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「書き手は、どんな理由や事例からその考えを述べていますか。題名の問いへの自分の答えは、読む前とどう変わりましたか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。C(1)ア・C(1)オに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

